

# 9月の衛研検査情報

## ～トピックス～

### 横浜市区別標準化死亡比（SMR）

地域別に、死亡数を人口で除した通常の死亡率（粗死亡率）を比較すると、地域の年齢構成に差があるため、高齢者の多い地域では死亡率が高くなり、若年者の多い地域では低くなる傾向があります。このような年齢構成の異なる地域間で、死亡状況の比較ができるように考えられた指標として、標準化死亡比（Standardized mortality ratio：SMR）があります。

標準化死亡比は、基準集団の年齢階級別死亡率とその地域の人口から算出する期待死亡数と、その地域で実際に観察された死亡数の比を用いることで、その地域の死亡状況がどの程度かを推測する指標です。標準化死亡比を用いることで、年齢構成の異なる集団について、年齢構成の違いを気にすることなく、より正確に地域比較ができます。

衛生研究所では、代表的な疾患について全国と比較した区ごとの標準化死亡比を算出し、ホームページ（<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/katsuyo/data.html>）に掲載しています。

**主な結果** 今回、昨年度公表された平成24年の人口動態から得られた数値を元に、データを更新しましたので、その内容の一部をご紹介します。

### 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、感染症情報や保健情報、薬事情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



**主な結果** 平成26年8月は、クロストリジウム-ディフィシル感染症、B群レンサ球菌（GBS）感染症、サイトメガロウイルス感染症、デング熱・デング出血熱に関するページのアクセスが多くみられ、総件数は123,803件でした。

デング熱に関しては、報道されている通り、国内での発生が増加しており、関心が高かったものと思われます。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。